

精密金型メーカーから“プラスチック精密成形総合システム会社”へ

不二精機株式会社
決算説明資料
証券コード6400



2010年3月5日HP公開

www.fujiseiki.com

2009年12月期の決算の説明と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

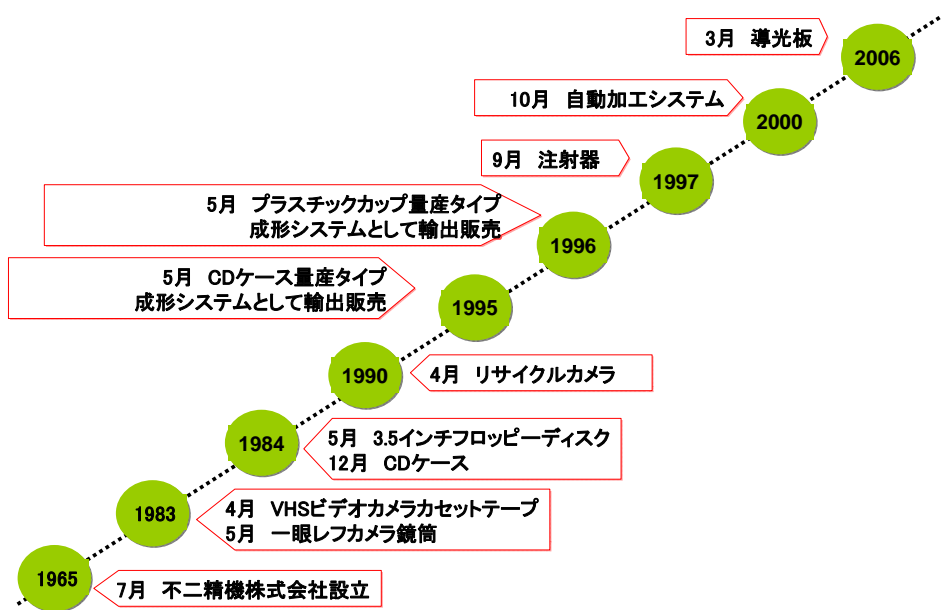
PRODUCT MOTHER FUJI SEKI

1

弊社の概要を紹介いたします。

沿革(主力製品の推移)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2

弊社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在では、金型より生産される成形品そのものの精密さを求められる、デジカメ等のズーム部分である鏡筒向け及び、ノートPC等用導光板向けの精密金型ならびに成形品、大量生産品である注射器等医療機器向けの精密金型及び成形システムが主力製品となっております。

海外生産拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海 	設立：01/09 稼働開始：02/03	■ デジカメ用光学機器用などの精密成形品の製造を担当
蘇州 	設立：02/03 稼働開始：03/10	■ 導光板などの精密成形品製造を担当
常州 	設立：01/12 稼働開始：02/08	■ 金型設計 (CAD・CAM) を担当
THAI 	設立：02/11 稼働開始：03/10	■ 主としてグループ内各社向けの精密金型製造を担当
THAI 	設立：01/01 稼働開始：02/03	■ プリンター部品、自動車用他、精密成形品および精密金型製造を担当

3

2001年より海外展開を急速に進め、中国・常州にコアビジネスである精密金型製造会社のほか、タイ及び中国に3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

また、蘇州には、弊社グループの金型設計等 (CAD・CAM) の生産性充実を図るために、設計センターも開設しております。

09/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

世界同時不況の影響を受けながらも、黒字転換を達成！

4

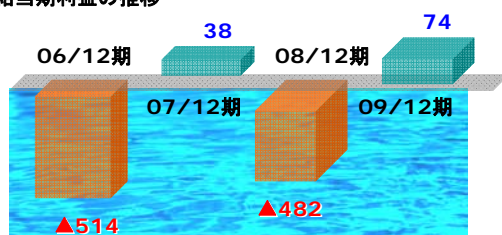
09年12月期の決算の概要につき、ご説明いたします。

09/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)		08/12月期	09/12月期	増減率(%)	売上比(%)
売上高	連結	8,459	5,436	▲ 35.7	100
	単体	5,750	3,735	▲ 35.0	100
営業利益	連結	31	181	475.8	3.3
	単体	16	168	916.8	4.5
経常利益	連結	▲446	76	-	1.4
	単体	▲542	99	-	2.7
当期利益	連結	▲482	74	-	1.4
	単体	▲697	31	-	0.8

連結当期利益の推移



・世界同時不況により、国内外マーケットの急激な悪化

・固定費の圧縮をはじめとした徹底的なコストダウンにより、減収ながらも黒字転換いたしました。

5

09年12月期の連結売上高は、精密金型セグメントにおいて、日本での金型関連設備の需要が急激に悪化したことおよび精密成形品セグメントにおいて、新型ディスクケースであるスーパージュエルボックス事業の撤退および上期において世界同時不況により大幅に需要が減少したことなどにより、54億36百万円(前年同期比35.7%減)となりました。

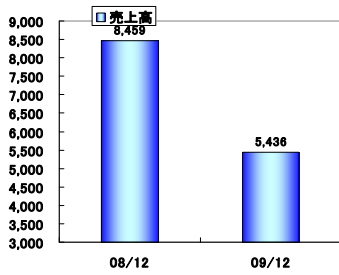
連結営業利益は、精密金型事業における徹底的な経費の削減および内製化による外注加工費の圧縮などによる粗利率の改善などがあり、営業利益1億81百万円(前連結会計年度比475.8%増)となりました。

連結経常利益は、支払利息が減少したことなどにより、経常利益76百万円(前連結会計年度は、4億46百万円の経常損失)となりました。

当期連結純利益は、スーパージュエルボックス事業の撤退に伴い、事業撤退損を特別損失に計上したことなどにより、当期純利益74百万円(前連結会計年度は、4億82百万円の当期純損失)となりました。

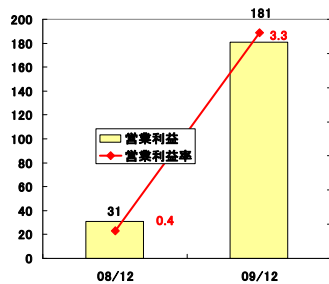
09/12月期連結決算総括

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



【売上高】

- ◆ 国内金型は、年初よりの急速な需要減で減少
- ◆ タイでは自動車部品関連の成形品受注は第1四半期より急減
- ◆ 上海では回復基調のデジカメ関連の成形品受注が減少
- ◆ 蘇州での液晶関連事業は発注延期等の影響で減少



【営業利益】

- ◆ 精密金型事業及び精密成形品事業ともに、売上減少があったものの、固定費の圧縮や内製化による徹底した原価低減により、大幅増加

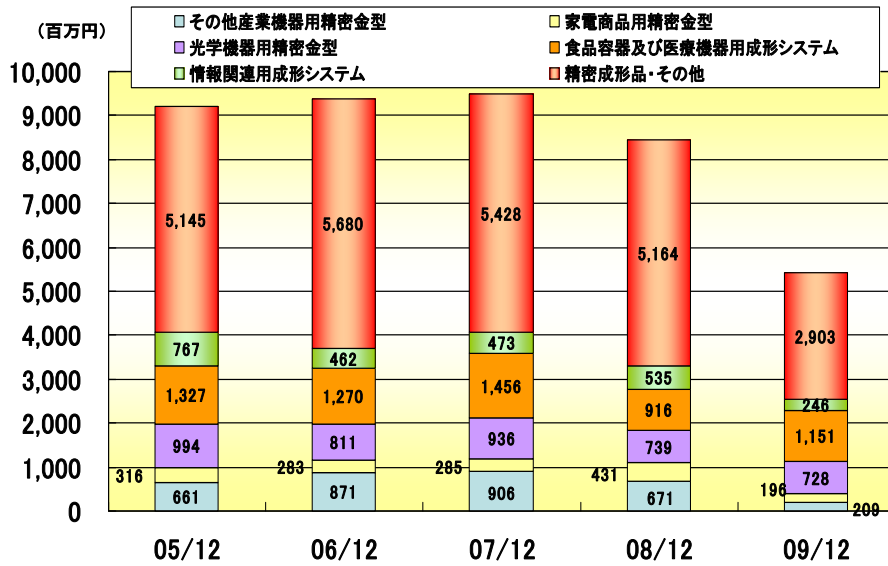
【経常利益】

- ◆ 前年大きな影響を受けた為替差損も発生せず、支払利息が減少したことなどにより、黒字転換

6

売上高は、前期比35.7%の減少したものの、徹底的な経費節減などにより、営業利益は、前期比475.8%の大幅増加となりました。

セグメント別売上高の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



7

情報関連用成形システム品目では、CDケース用成形システムが減少したことなどにより、当品目の売上高は2億46百万円(前連結会計年度比53.9%減)になりました。

食品容器及び医療機器用成形システム品目では、食品容器及び医療機器用成形システムが共に増加したことなどにより、当品目の売上高は11億51百万円(前連結会計年度比25.6%増)となりました。

光学機器用精密金型品目では、導光板関連精密金型が減少したことなどにより、当品目の売上高は7億28百万円(前連結会計年度比1.5%減)となりました。

家電商品用精密金型品目では、プリンター部品用精密金型が減少したことなどにより、当品目の売上高は1億96百万円(前連結会計年度比54.4%減)となりました。

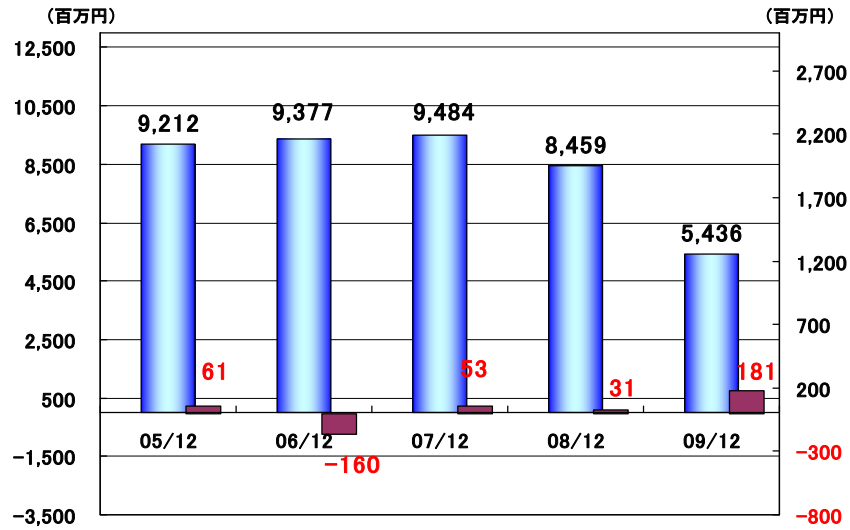
その他産業機器用精密金型品目では、自動車部品用精密金型及び産業機器用精密金型が共に減少したことなどにより、当品目の売上高は2億9百万円(前連結会計年度比68.9%減)となりました。

このような結果、当セグメントの売上高は、25億32百万円(前連結会計年度比23.1%減)となりました。

<精密成形品その他事業>

精密成形品その他セグメントは、自動車関連成形品及び情報関連用成形品が減少したことなどにより、当セグメントの売上高は、29億3百万円(前連結会計年度比43.8%減)となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



8

08年秋以降、国内外顧客の設備投資意欲の急激な減退等により、連結売上高は前期比30億23百万円減少(前期比35.7%減)しました。

精密金型事業における徹底的な経費の削減などによる粗利率の改善などがあり、営業利益は1億81百万円(前連結会計年度比475.8%増)となりました。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	08/12月期		09/12月期		増減額	コメント
		構成比		構成比		
流動資産	2,885	46.5	3,050	52.0	166	
現金・預金	571	9.2	788	13.4	217	
受手・売掛金	1,507	24.3	1,320	22.5	△187	
棚卸資産	556	9.0	445	7.6	△110	
固定資産	3,314	53.5	2,820	48.0	△494	設備売却及び減価償却
資産合計	6,199	100.0	5,870	100.0	△328	
流動負債	4,163	67.2	4,431	75.5	268	短期借入増
支払手形・買掛金	714	11.5	654	11.1	△61	
固定負債	1,767	28.5	1,130	19.2	△637	長期借入減
負債合計	5,929	95.7	5,560	94.7	△369	
純資産合計	269	4.3	310	5.3	40	
負債・純資産合計	6,199	100.0	5,870	100.0	△328	

9

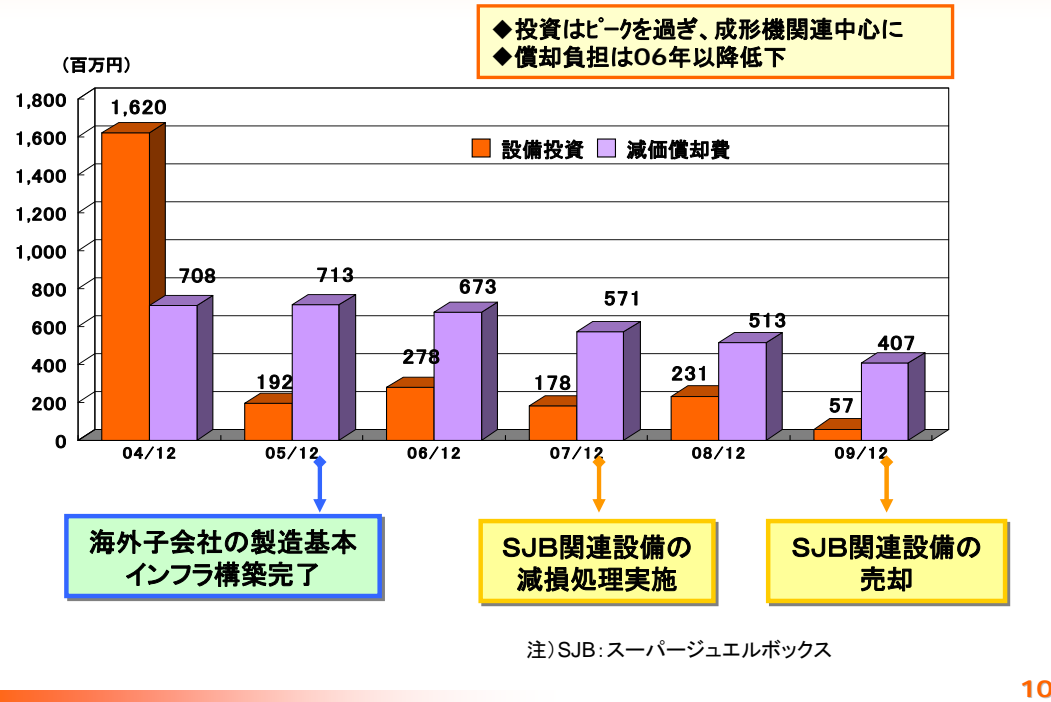
固定資産は、スーパージュエルボックス事業の撤退に伴う設備売却及び減価償却実施などにより、対前期比494百万円減少しました。

流動負債は、短期借入金が増加したことなどにより、対前期比268百万円増加しました。

固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより、対前期比637百万円減少しました。

インフラ投資と償却負担(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



海外子会社の製造インフラ構築のための投資は2005年で終了し、スーパージュエルボックス事業関連設備の減損・売却処理は2009年で完了しております。

新規投資を成形事業の拡充関連に絞っておりますので、減価償却負担は2006年以降減少しております。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	08/12月期	09/12月期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	240	347	107
投資活動によるキャッシュフロー	703	296	▲406
財務活動によるキャッシュフロー	▲1,177	▲318	858
現金及び現金同等物の期末残高	465	783	318

キャッシュフローの増減要因

営業活動

主として当期純利益の増加によるものです。

投資活動

主として定期預金の払戻収入の減少によるものです。

財務活動

主として長期借入金の返済支出の減少によるものです。

11

2009年度はフリーキャッシュフロー643百万円を確保し、借入金の返済を進めております。

事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため
「金型専業」から「成形事業」へ
収益の柱のシフトを目指します

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術がなくてはできない付加価値の高い成形品を選択した「成形事業」へ収益の柱のシフトを目指しております。

◆なぜ成形事業か

成形品は儲からない？

成形事業は、**独自ノウハウの活用**で
高収益事業化が可能です

“**高生産性・収益性**”の金型設計・製造
ノウハウを持つ不二精機グループだから
実現できる！

14

当社のコア技術である「高生産性・高収益性」の金型技術と、中国、タイの各成形工場の品質及び生産管理技術を融合させることにより、16～21ページに事例を紹介しながら、検証してまいります。

◆高収益性金型のポイント

- ①ハイサイクル化 .. 1回の時間
- ②多数個取化 .. 1回当りの個数
- ③材料低減化 .. ランナー減
- ④歩留り向上 .. 不良率低減



15

①「ハイサイクル」とは、成形機に搭載された金型に熔融樹脂を注入～冷却工程にて金型内の樹脂を固化(金型形状の転写)～金型を開いて成形品取出し～型閉め工程を「1サイクル」とし、この一連の工程(サイクル)を高速化させることをハイサイクル化といえます。

このハイサイクル化を実現するためには、金型の高精度化に加え、金型冷却のノウハウや成形技術ノウハウが必要となります。

②「多数個取」とは、成形機に搭載できる金型の大きさは、それぞれの成形機の大きさに応じて決まっています。

その限られたスペース内に収まる金型で可能な限りたくさんの製品が配置できる金型を多数個取金型といえます。

また、多数個取金型は、製品間寸法のバラツキを発生させないため、高精度加工、冷却回路等、非常に難易度の高いものづくりが要求されます。

③「材料低減」とは、コールドランナー金型では、成形機にて熔融させた樹脂を金型内に射出後、金型内に掘り込まれた湯道を通り、金型内の製品掘り込み部分に転写させるわけですが、この湯道が「ランナー」と呼ばれています。

「ランナー」は製品を成形するために必要ではあるものの、製品には必要がなく、いわば成形工程における「材料ロス」であります。

弊社ではこのランナー重量(太さ・大きさ等)を、可能な限り少なくとも安定した品質が実現できる金型づくりを行っております。

④不良率を少なくするためには、金型の高精度はもちろん、成形技術ノウハウも必要となります。

弊社では、長年蓄積した金型完成後の試作データを元に、さまざまな特性を持つ樹脂成形にもそのノウハウを活かしております。

◆なぜ利益が出せる？

例：デジカメ部品

①ハイサイクル化

- ・(改善前) 1サイクル 28秒
- ・(改善後) 1サイクル 18秒



☆35% 成形チャージ削減

16

弊社グループである、主に上海不二精機でのデジカメ部品の事例です。

弊社グループのハイサイクル仕様の金型を採用することにより、成形チャージを35%低減できたこと等によって、利益率の改善が可能となりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：プリンター部品

②多数個取り化

- ・(改善前) 1サイクル 16個取り(6型)
- ・(改善後) 1サイクル 64個取り(2型)



☆成形設備 1/3へ

17

弊社グループである、主にタイフジセイキでのプリンター部品の事例です。

当該部品を成形するための金型を従来は、1回の成形で16個の製品が成形できる金型(16ヶ取り金型)を6型使い、6台の成形機にて成形しておりました。

改善後は、弊社グループにて64ヶ取り金型を2型作ることで、品質を確保しながら、必要生産量が確保できることとなり、結果、成形設備は2ラインですむこととなりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：液晶ホルダー

③材料低減化

・(改善前) $8.68\text{g} \times 4,000\text{k} = 34,720\text{kg}$ ・(改善後) $6.05\text{g} \times 4,000\text{k} = 24,200\text{kg}$ 

☆ 6百万円 コストダウン (10,000kg × 600円)

18

弊社グループである、主に上海不二精機での液晶パネルのホルダー部品の事例です。
ランナー形状等の改善により、ランナー重量を減らすこと等で、樹脂材料費の削減が可能となりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：高輝度導光板

④歩留り向上

・(改善前) 70%

・(改善後) 95%



☆35% コストダウン

19

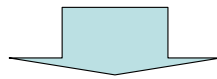
弊社グループである、主に蘇州不二精機での高輝度導光板の事例です。

導光板は、従来より要求品質が高く、歩留まりが悪い製品でした。

弊社グループの高精度金型の利用及び同工場の品質管理技術により、歩留まり率を向上させ、35%のコストダウンを実現しております。

◆連結利益向上への課題

- ①受注の絶対量の拡大
- ②安定稼働のできる分野・製品の開拓



年間平均稼働率を高める = 利益率向上

成形事業の利益率向上への課題は、上記2点です。

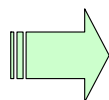
受注の絶対量と、年間を平均して稼働率が安定する分野の受注拡大がテーマとなります。

◆課題への対処

- ①品質管理体制の強化(TS取得済み)
- ②営業活動の重点シフト



成形量産メーカーとして認知拡大

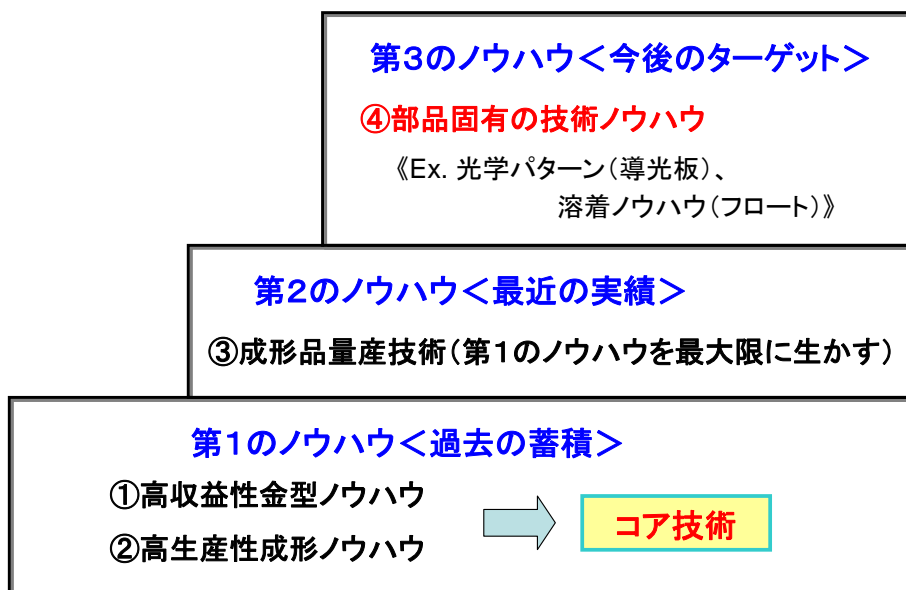


稼働率向上 = 利益率改善！

課題に対する対処としては、品質管理体制の強化をベースに生産の波が比較的少ない自動車部品、医療用品、食品容器の分野の拡大を営業活動の方針とします。

これにより、成形品量産メーカーとしての認知度と評価を高め、稼働率の向上による利益率の改善を目指してまいります。

※「TS」…欧米メーカーが採用している自動車部品の品質管理を認証する制度。



また、高収益金型、高生産性成形を最大限に活かした成形品量産技術のノウハウをもとに、弊社の強みを活かした部品等の生産を通じて、固有技術の蓄積を図ります。

2010/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

連結利益は、通期で黒字拡大へ！

23

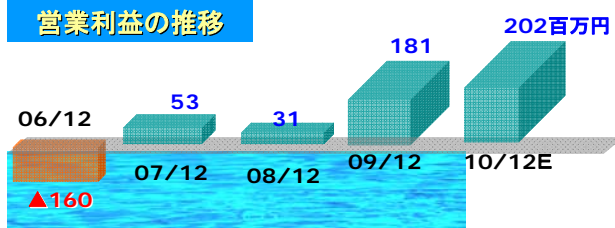
今期の弊社事業計画をご紹介します。

10/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	09/12月期	10/12月期計画	増減率%	売上比%
売上高	5,436	5,984	10.1	100.0
売上総利益	1,098	1,165	6.1	19.5
販管費	917	963	5.0	16.1
営業利益	181	202	11.6	3.4
経常利益	76	67	△11.8	1.1
純利益	74	130	75.7	2.2
設備投資	57	110	93.0	-
減価償却費	407	362	△11.1	-

営業利益の推移



<営業利益改善ポイント>

- ・海外受注の拡大
- ・内製化によるコストダウン

24

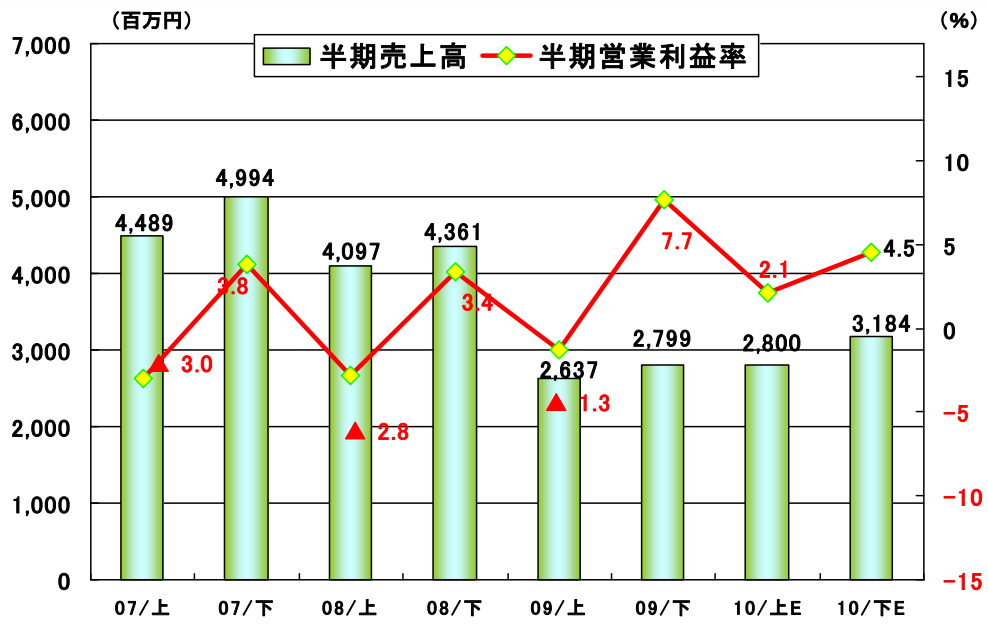
2010/12期の売上高は、国内販路の拡大および製造業の海外生産移管の追い風を確実につかみ、計画の達成を目指します。

営業利益は、海外子会社などにおいて稼働率が安定化する受注の確保のほか、内製化によるコストダウンを進めることなどにより、計画の達成を目指します。

純利益は、匿名組合投資利益 69百万円を特別利益に計上することなどから、130百万円を見込んでおります。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



25

弊社の業績は、下期に偏在する傾向があります。

通期連結売上高は、リーマンショックの影響を受けた前年度より着実な回復を目指します。

中期事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

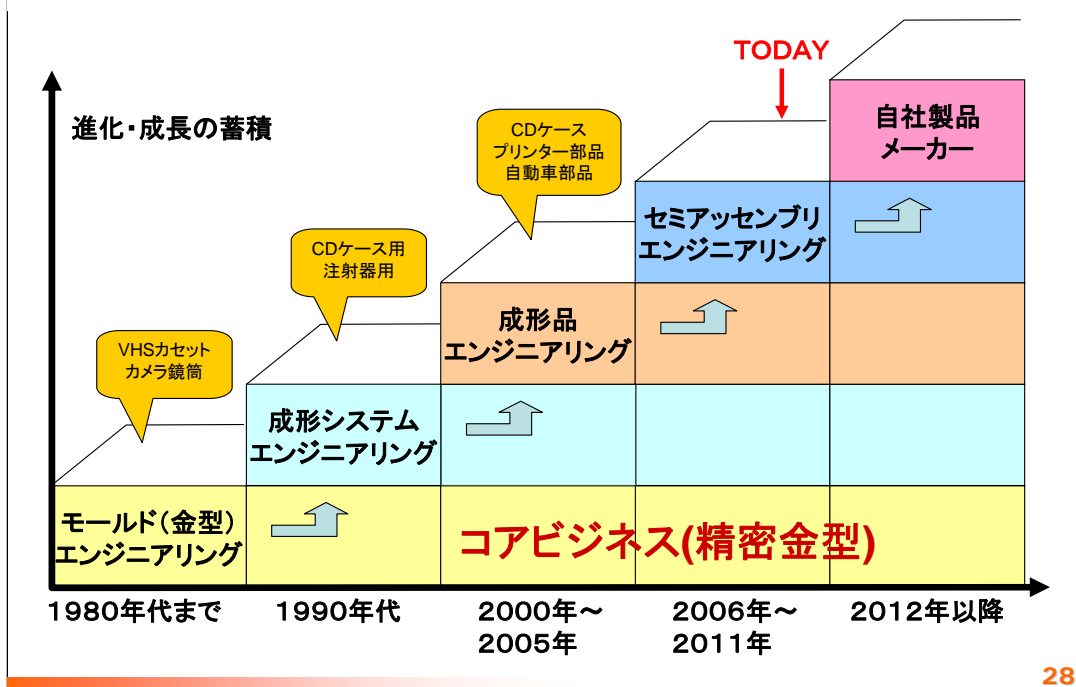


当社グループの総力で、金型の製作だけでなく、製品の企画段階より製品での納品まで(ワンストップソリューション)、精密金型技術をコア技術として、顧客のニーズに最適なものづくりを提案いたします。

もちろん、上図それぞれのステップ(金型製作のみ、成形品製造のみ等)単位でのご相談もお受けします。

不二精機の歩みと今後

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも弊社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

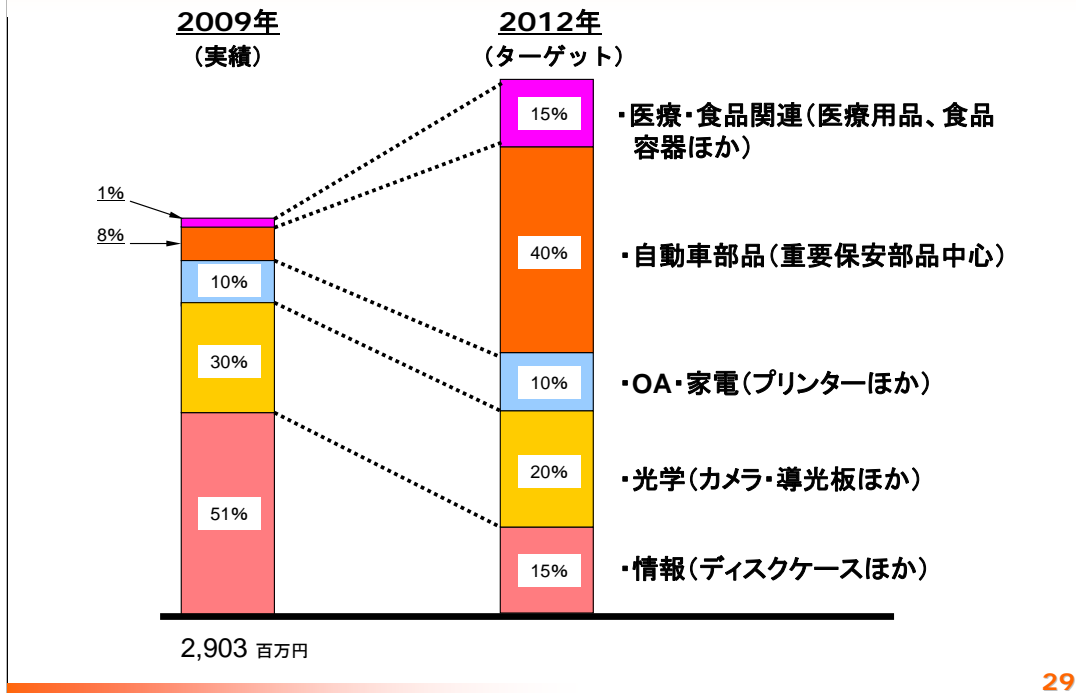
2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある弊社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装及びセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2012年以降には、弊社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指し、日々研鑽しております。

成形品売上<分野別ターゲット>

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



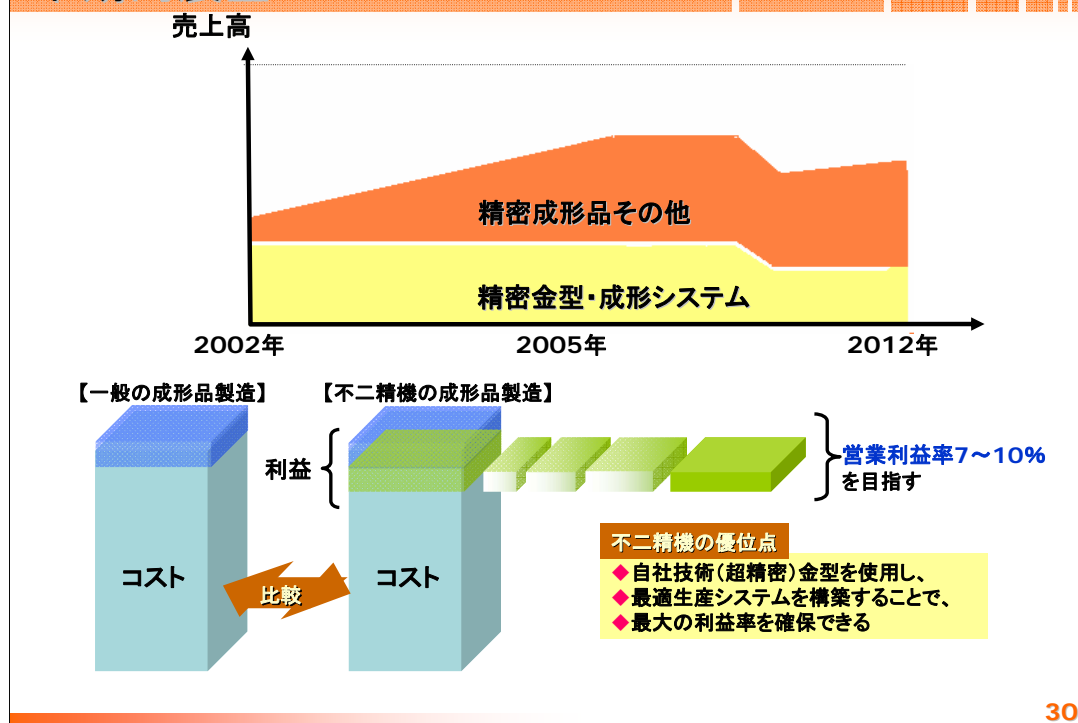
成形品売上の中心であった、材料比率が高く付加価値率の低いディスクケース製品の縮小(新型ディスクケースであるスーパージュエルボックス事業からは撤退)を進めますので情報関連の売上高は減少を見込んでおります。

一方、生産の波が比較的少ない自動車部品、医療用品、食品容器の分野の拡大を図り、損益改善の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当分野の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

中期的展望

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



30

2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況による市場縮小の影響を受け減収となりました。

前述のとおり精密成形品事業では、ディスクケース製品の縮小を進め安定稼働と利益率の向上を目指し、自動車部品、医療用品、食品容器などの分野の拡大を推進いたします。

精密金型事業においては、強みのある医療機器、食品容器、光学部品ほかの金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、当事業の利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率7%~10%を中期目標といたします。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

経営企画室

TEL:06-4306-6822